

来て 見て 触れて

むかし探検

No. 111
～明治から昭和へ～

明治時代は、西洋の文化を取り入れる文明開化が進み、日本も近代国家として国際社会へと歩み出します。



明治の交野の村

誕生しました。昭和30年、交野町と星田村が合併し、現在の交野市の前身となる交野町が誕生し、昭和46年に交野市となりました。

江戸時代以来続いてきた交野の村々は、明治21年に、交野村(それまでの郡津村・倉治村・私部村)、磐船村(それまでの寺村・森村・傍示村・私市村)、星田村の3つにまとめられます。

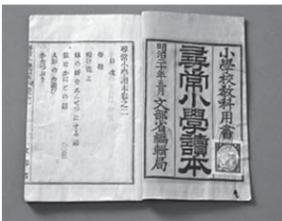
昭和14年には交野村と磐船村が合併し、交野町が

進む近代化

明治時代以降、市内の近代化が進み、現在の暮らしにつながる基盤が出来上がっていきます。

明治の初めに学校教育の土台ができ、私部と星田に交野で初めての小学校(尋常小学校)が置かれました。

また、明治31年に関西鉄道株式会社が四條畷・長尾間の営業を始め星田駅ができます。これが現在の学研都市線の前身となります。



尋常小学校読本



寺地区からの風景(昭和42年ごろ)

交野の発明家

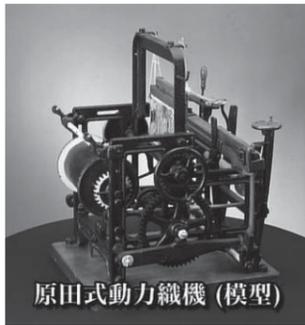
明治時代は、全国各地で繭の生産が盛んで、交野でも多く作られていましたが、そのほとんどが長野の製糸工場に送られていました。私部村に住む原田元治郎さんは、そこに目をつけて明治14年、「原田織機」という交野で初となる工場を作りました。

その後、日清戦争が終わり、全国的に産業発展が進む中、原田さんは機械の力を利用してさらに生産性の高い綿織機を作ろうと、私財を投じて織機の開発を進めました。

そして、明治30年に「原田式動力織機」という綿織機を開発しました。

当時、他にも動力織機はありましたが、原田式動力織機はその実用価値を認められ全国に広まっていきました。中でも大阪南西部の泉州では原田式動力織機が広く採用され、綿布・タオル機業発展のもととなりました。また、原田式動力織機は滋賀県で蚊帳の製造にも使われました。

このような日本の紡績業の発展に貢献した功績をたたえられ、原田さんは藍綬褒章を受章(1917年)しています。



原田式動力織機(模型)

レトロモダンな建物

西洋の文化が取り入れられる中で、次第に江戸時代以来の交野の町並みも変わっていきます。

その当時の名残を残す建物が、倉治にある交野市立教育文化会館です。

昭和4年に現在の近畿大阪銀行の前身の一つである交野無尽金融の本社屋として建設されました。当時としては珍しい鉄筋コンクリートで堅固なつくりをしています。

また、アーチ状の窓枠や屋上の手すり壁の形などに中世ヨーロッパのお城の特徴が取り入れられています。壁一面に張られたスクラッチタイルは、当時の大学や金融機関などの建物で流行したもので、



交野無尽金融本社(昭和4年竣工当時)

で、タイルは1枚1枚微妙に異なる色調があり、石造りの建物のような風合いを見せています。

後に旧交野町に寄贈され、一時期は町役場として利用されていました。

北河内地域では数少ない良好な近代建築として、国の登録文化財となっています。

戦争の記憶

日本は明治から昭和にかけて多くの戦争を体験しました。太平洋戦争末期には、大阪市内が大規模な空襲に見舞われ、この交野の上空でも米軍機と日本軍機が交戦しました。

この戦争の記憶を残す遺物が第二京阪道路建設時に発見されました。「飛燕」という戦闘機のエンジンや機関銃、プロペラなどの一部です。

昭和20年の7月に、米軍の戦闘機と交野上空で交戦した一機の飛燕が墜落しました。このとき地中深くにもぐりこんでしまった戦闘機が60年以上もの時間を経て平成17年に発見されまし



戦闘機「飛燕」の機関砲

た。これらの部品は薄れつつある戦争の記憶を今に伝えるものとして、いきいきランド交野に展示されています。

交野の考古学のはじまり

この時代は交野市民による考古学が始まった時代でもあります。のちに郷土史家として有名になった片山長三さんは明治時代から市内の各遺跡で遺物を探していました。昭和26年には現在の枚方変電所建設時に倉治古墳群が発掘調査されたことをきっかけに、片山さんや奥野平次さんを中心に市民による「交野考古学会」が作られます。この会はいくつもの発掘調査を行い、その成果は交野市史にも記されています。

戦後の市民による歴史研究をめざした活動と、市民が考古学などの学問を通じて広く交野の歴史を学ぶ活動は、現在の交野市古文化同好会などに引き継がれています。

明治～昭和時代を考古学してみよう

明治から昭和の激動の時代の中で、交野にもめまぐるしい変化が訪れ、人々の暮らしがどんどん変わっていきます。当時の資料を知る場所として、教育文化会館があります。さまざまな生活道具などが展示されていますので、ちょっと昔の暮らしの様子や出来事を知りたいときはお気軽にお越しください。

歴史探検ツアー＆考古学講座

昔の町並みが残る倉治を巡り、交野の代表的な近代建築の建物、教育文化会館で展示されている発掘出土品に触れて学びます。

とき 2月26日(日)午前10時～正午
集合 午前10時にいきいきランド交野
問い合わせ 文化財事業団(Tel.893・8111)

歴史クイズ

問題

今月紹介した教育文化会館は、ある有名な近代建築と似ていることが知られており、設計時に参考になっているのではありませんかといわれています。その建物とはどれでしょうか？

- ①旧大阪府庁の本館
- ②大阪市中央公会堂
- ③早稲田大学の大隈講堂

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に、「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表はガイドブックの発送に替えさせていただきます。

応募方法 2月29日(水)までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係(Tel.576-0052 私部2-29-5 e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp)

問い合わせ 文化財事業団(Tel.893・8111)

1月号歴史クイズ答え

正解は、①でした。
解説：早稲田で江戸から赤穂までの620里を、4日半(1日で約138里)で移動しました。徒歩による人間の移動距離が30～40里程度といわれているので、驚異的な数字といえます。